

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(平成30年5月分)

平成30年7月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

1. 国内情勢
 - (1) 国家レベル
 - (2) エンティティ、特別区
 - ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)
 - イ スルプスカ共和国(RS)
 - ウ ブルチュコ特別区
2. 外政
 - (1) 多国間、国際・地域機構 (EU加盟プロセスを含む)
 - (2) 二国間関係
 - (3) 日・BH関係
3. 経済
 - (1) 経済政策、公共事業
 - (2) 経済協力
 - (3) 民間セクター

(注: 以下は、現地紙など公開情報を取りまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●国政選挙の公示(8日)

8日、BH中央選挙管理委員会により、2018年10月7日(日)の国政選挙の実施が公示された。今回行われる選挙は以下の通り。

- (1) BH大統領評議会メンバー
- (2) BH議会下院議員
- (3) BH連邦議会下院議員
- (4) RS国民議会議員
- (5) RS大統領及び副大統領
- (6) BH連邦カントン議会議員(計10カントン)
候補者リストの提出期間は7月9日まで、

選挙運動は9月7日から10月5日まで実施される。

なお、BH憲法裁判所の違憲判決を受けて、当該選挙公示日までの改正が目指されていたのは、BH選挙法におけるBH連邦議会上院議員選出規則であるが、右は(6)の各カントン議会から指名される間接選挙。

●HDZとSNSDが選挙後協力について協議(14日)

14日、モスタルにおいて、チョービッチHDZ党首(大統領評議会クロアチア系メンバー)とドディックSNSD党首(RS大統領)が会合を行い、10月の国政選挙後の国政レベルでの速

やかな組閣に向けた両党の連立可能性について協議を行った。現在、SNSDは国政では野党(RS与党)だが、今回は、RSと国政両方での与党を狙っている。

●移民問題への対応と混乱(9日、14日、15日、18日、29日)

2018年に入ってからのBHにおける継続的な不法移民・難民の流入を受け、14日、移民問題対応関係機関調整会合が開催され、翌15日には、BH閣僚評議会会合において、同問題に対する緊急行動計画が採択された。

18日、同計画に基づき、サラエボ市内でテント生活を行っていた269名の移民を、ヘルツェゴビナ・ネレトバ・カントン(HNC)のサラコバツ収容センターに移送したが、HNC警察は、同移送に関する正式な連絡を国家から受けていないとして移送車を一時停止させる等、国家とカントンとの対立が明るみになった。なお、ドディックRS大統領は9日時点で、移民収容所のRS領土への設置を断固拒否する旨表明している。

29日、閣僚評議会は更に増え続ける同問題の最新報告を受け、欧州評議会開発銀行に対し、同問題への対応に100万ユーロの支援を求める行動計画を欧州委員会に提出した。

なおBH国境警察によると、2018年1月から5月中旬までに摘発された不法移民の数は4,870名、うち庇護申請希望者が4,215名。一方で、実際に申請した者は423名。彼らにとり、BHは最終目的地である独等に向かう経由地になっているが、EUの玄関口であるクロアチアの国境管理が厳しくなっており、クロアチアと国境を接するウナ・サナ・カントンに移民が滞留する状況が発生している。

●ラドンチッチSBB党首、無罪(16日)

16日、BH裁判所は贈収賄・組織犯罪に対する偽証罪及び教唆の容疑で起訴されていたラドンチッチSBB党首他2名に無罪の判決を言い渡した。ラドンチッチ氏はボシュニャク系第2党のSBB党首である他、メディア及び不動産関連の実業家として知られている。また、当地ドネブニ・アバズ紙のオーナーであり、10月の選挙では、大統領評議会ボシュニャク系メンバーへの出馬が決まっている。

●各党による3大統領評議会メンバー候補等の確定(26日、27日)

26日、SDAは党大会を実施し、現在BH議会下院副議長を務めるジャフェロビッチ副党首を大統領評議会ボシュニャク系メンバー候補として選出した。

翌27日、SDPは党大会を実施し、ベチェロビッチ現BH議会下院議員兼同党副党首を、同じく大統領評議会ボシュニャク系メンバーに選出した。

●BH憲法裁判所によるBH刑事訴訟法に関する違憲判決に対する強制執行の否定(31日)

31日、BH憲法裁判所は定期会合を開催し、同裁判所による2017年6月のBH刑事訴訟法に対する違憲判決の未履行について協議を行い、犯罪捜査に対する法的欠如の状態を作り出さないために、該当条項の削除は行わない旨決定した。更に、犯罪捜査の履行においては、同違憲判決の指摘に従い、BH憲法及び欧州人権条約に適合した方法とすることも決定した。

(2)エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●ヨーロッパ戦勝記念日祝賀イベント(9日)

9日、モスタルのパルチザン記念共同墓地において、ヨーロッパ戦勝記念日及び墓地内にある国定記念碑の修復完了祝賀イベントが開催された。ノバリッチBH連邦首相等、SDAの要人は右行事に参加したが、HDZからはベシュリッチ・モスタル市長を含めて1名も参加しなかった。

●モスタル市議会選挙に関する協議は継続中(10日)

10日、4月に引き続き、モスタル市において、BH主要9政党の地元代表が2008年以来実施されていないモスタル市議会選挙問題の解決につき協議を行った。市の法令の改定と選挙モデルを具体的に話し合ったが、今まで同様、SDAが主張している法令改正による副市長の導入に対し、HDZが強硬に反対して、協議は平行線のまま終了した。

●退役軍人に対する特別会合を実施(23日)

23日、BH連邦議会下院は、BH連邦議会建物前で抗議行動を続ける退役軍人に関し、6名の退役軍人も参加の上、特別会合を実施した。協議の上、抗議運動の要求を実現するため、30日以内に改正法案及び新法の起草を行う旨の決議を採択した。

●チョービッチ・メンバー、4カントンの関係者を集めて移民に関する会合(24日)

24日、モスタルにおいて、チョービッチ大統領評議会メンバー(クロアチア系)は、クロアチア系が多数派の4カントンの首相、内務相及

び警察本部長を集めて移民に関する会合を開催した。BH閣僚評議会は、国家主導の解決を引き続き呼びかけているが、国家とエンティティ、カントンの足並みは揃っていない。

●BH連邦憲法裁判所、セルビア系の地位改善を求める判決(29日)

29日、BH連邦憲法裁判所は、ノバリッチBH連邦首相並びに西ヘルツェゴビナ及びヘルツェグ・ネレトバ・カントン議会の3分の1の議員が提訴した、ヘルツェグ・ネレトバ・カントン、西ヘルツェゴビナ・カントン及びポサビナ・カントンにおいて、セルビア系住民がカントン憲法上の構成民族ではない件に関し、至急カントン憲法の見直しを求める判決を下した。

イ スルブスカ共和国(RS)

●タディッチ元SDS副党首、DNSへ(3日)

3日、元SDS副党首のタディッチBH議会上院議員が党首を務める「人民党(NP)」がDNS(RS与党第二党)へ合流することを発表した。ここ数か月の間に、SDS(国政与党・RS野党)からDNSに所属を変更したBH議会議員は同議員で3人目となった。

●RS国民議会、青年の不審死の捜査をめぐり特別会合の開催

10日、3月末に発生した青年の不審死へのRS当局の不十分な対応に対し、バニャ・ルーカ市において2ヶ月以上続く抗議デモを受け、RS国民議会は、同問題に関する特別会合を開催した。青年の父親等が出席し発言を行うも、ルカッチュ内務相を始めとする責任者は、同発言を否定した上に名誉毀損で訴えたと述べ、与党は、同捜査はしかるべく実施された旨の決定を採択した。一方で、野党議員を中

心とした調査委員会が議会内に発足し、法医学者やRS警察組織犯罪課長等からの聴取を開始。このような中、同デモはBH全土への拡大を見せている。

ウ ブルチュコ特別区

●SDSを除外した新連立合意(5日)

5日、ミリッチ・ブルチュコ特別区市長(SNSD)は、同特別区におけるセルビア系連立与党から、SDSがSNSDを追放しようと画策したとして、SDSを除外したSNSD、SPRS、PDP、NDPによる新連立合意を発表した。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●インツコ上級代表、国連安保理報告(8日)

8日、インツコ上級代表は、BHに関する国連安保理会合において、報告を行った。

同報告によると、2017年10月～4月の6ヶ月間は、EU加盟プロセスに関し、2月に欧州委員会による質問票の回答を提出する等進展があった。一方で、民族対立を煽るレトリックや法の支配分野に関しては大きな後退が見られた。各政党は既に選挙に向けた支持基盤固めに注力しており、未改正のままでは選挙後の政府立上げに影響を及ぼすBH選挙法の問題等、BH憲法裁判所による重要な違憲判決が未履行のままであると指摘している。また、OHRの閉鎖条件である「5+2」に関しては大きな進展がなかった。

●EU・西バルカン首脳会合の開催(17日)

17日、ブルガリアのソフィアにおいてEU・西バルカン首脳会合が開催され、BHからはイ

ゼトベゴビッチ大統領評議会議長(ボシュニャク系)が出席した。同議長は、EUとその加盟国に対し、BHのEU加盟プロセスにおける継続的な支援への謝意を改めて表明した他、2018年中に加盟候補国の地位獲得を目指して更なる支援を求めた。

(2) 二国間関係

●BH大統領評議会とメルケル独首相の会談(9日)

9日、BH大統領評議会の全3メンバーが独を訪問し、メルケル独首相と会談を行った。

会談前、メルケル首相は、BH選挙法改正問題に懸念を表明し、会談では同問題の解決に向けた協議を実施すると述べ、また、独はBHを含めたバルカン諸国のEU加盟プロセスを強く支持すると述べた。BH帰国後、イゼトベゴビッチ大統領評議会議長(ボシュニャク系)は、BHのEU加盟候補国地位付与に関するEUの意見書策定に向けた独の支援をメルケル首相に対し、依頼したと述べた。

●グラバル＝キタロビッチ・クロアチア大統領のBH訪問(14-15日)

14～15日、グラバル＝キタロビッチ・クロアチア大統領はBHを訪問し、クロアチア系が多数派を占める複数の地域を訪問した。

モスタル市を訪問した同大統領は、「BHのクロアチア系はマイノリティではない。クロアチア人全体にとり、BHは第二の故郷である。クロアチアは、自国の憲法上、BHのクロアチア系を保護する義務を有している。」と述べた。また、BH内4館目となるビテズ市のクロアチア領事館の開館式にも参加した。

●エルドアン・トルコ大統領のBH訪問とUET

D集会の開催(20日)

20日、エルドアン・トルコ大統領は、BHを訪問し、イゼトベゴビッチ大統領評議会議長(ボシュニャク系)及びズビズディッチ閣僚評議会議長、ユースコ通信・運輸相(共にボシュニャク系)等と会談を行い、二国間関係やトルコが資金を提供するサラエボ・ベオグラード間の高速道路建設プロジェクト等につき協議を行った。

会談の後、エルドアン大統領は、イゼトベゴビッチ議長と共に、オリンピック・スタジアムにおいて開催された欧州トルコ民主連合(UETD)の集会に参加した。同集会には、欧州各地から2万人の参加者が集結した。なお、同集会は独、オランダ及びオーストリアでの開催を禁止され、BHで開催された経緯がある。

●ドディックRS大統領の露訪問(25日)

25日、ドディックRS大統領は露を訪問し、サント・ペテルブルク国際経済フォーラムに参加した。フォーラムの傍ら、ポルタチェンコ同市市長と会談し、RSの軍需企業との契約について協議した他、プーチン露大統領とも会談を行ったが、その内容は明らかになっていない。

(3)日・BH関係

●日・BH政務協議の開催(30日)

30日、日本を訪問中のブルキッチ外務副大臣は、マリッチ駐日大使等と共に、東京で開催された日本外務省との二国間政務協議に出席し、川村西バルカン担当大使及び大槻中・東欧課長と二国間関係や経済分野での更なる協力について協議を行った。

3. 経済

(1)経済政策、公共事業

●ヤホリナ経済フォーラムを開催(3~4日)

3~4日、BH及びセルビアのエコノミスト協会の共催、ドディックRS大統領の後援により、サラエボ近郊のヤホリナ山において、ヤホリナ経済フォーラムが開催された。今回は、「地域協力は南東欧の経済発展の重要なてこ」と題して、各国より400名以上が参加し、70名のパネリストが集まった。BHからは、イバニッチ大統領評議会メンバー(セルビア系)、同チヨビッチ・メンバー(クロアチア系)、ドディックRS大統領、ツビヤノビッチRS首相に加え、国家及びRSの各大臣が、セルビアからはブルナビッチ首相が参加し、ヴィゲマルク駐BH・EU大使やCheng中国大使等も参加した。

●2019年のEBRD年次総会は、BHで開催(9日)

9日、ヨルダンで開催されたEBRD年次総会に参加したシャロビッチ副首相兼対外貿易経済関係相は、2019年の同年次総会が、BHで行われることが決定した旨発表した。同総会は、2019年5月7~8日にサラエボにおいて開催され、3,000名もの各国の大臣やビジネスマンが参加する。

●モスタル近郊の自動車専用道路の建設合意(18日)

18日、プナ・ポチテリ間の高速道路の建設に関し、テルジッチBH連邦高速道路公社総裁代行及びラシッチBH連邦運輸・通信相等関係者間で、総額約2,570万ユーロの契約が締結された。テルジッチ総裁代行によれば、同区画は7.2kmで、工期は18か月。建設資金はEBRDからの貸付によるもので、同区画は、高速道路「Vc回廊」のモスタル南・ポチテ

り間自動車専用道路の一部になる。

●ITAにおけるエンティティの対立(21日、24日)

21日、BH間接税庁(ITA)運営委員会は会合を実施した。一方で、BH連邦のRSに対する負債に関し、BH連邦が支払いを拒否しているため、これは運営側の責任であるとしてITAに支払いを求めている件や、燃料税増税による増収分の高速道路建設費用名目としての配分をめくり、その配分率を増税前と同じとするか変更するか等の問題について、エンティティ間で対立し、引き続き合意ができないまま会合を終了した。

24日、上記負債に関し、RSを拠点とする2銀行は、RS政府の命令により、RSが主張しているITAのRSに対する負債を回収するために、ITAの口座を凍結するに至った。

(2)経済協力

●サウジ、BHの弾薬庫の建設に94万ドルを供与

8日付当地紙によれば、サウジアラビアは、サラエボ郊外のハジッチにあるBH軍の弾薬庫の建設プロジェクトに対し、UNDPを通して94万ドルの供与を行った。

●伊、BHの観光プロジェクトに100万ユーロを供与

16日付当地紙によれば、伊は、BHの観光プロジェクト「Via Dinarica」への100万ユーロの供与に関する署名式を行った。

「Via Dinarica」(<https://viadinarica.com/en/>)は、西バルカン全体の自然観光をアピールするプロジェクトで、主に米国とUNDPの支援を受け立ち上げられ、地域横断的

にBH、クロアチア及びスロベニア等が参加している。

(3)民間セクター

●スイス大手化学メーカー、ズボルニクに工場を新設(7日)

7日、スイスの“CPH Chemie+Papier Holindg AG”のグループ会社である“Zeochem”社が、BH北東部、セルビアとの国境であるドリナ川沿いに位置するズボルニクに昨年購入した5,400平米の土地に建設したゼオライト及びクロマトグラフ精製工場が稼働を開始した。同工場は、同社が現在所有するスイス、米国、中国の工場に次いで建設され、世界中の市場に向けて輸出される。

●スロベニア“Kolektor”社、プリエドルに工場を新設(13日)

13日、自動車や家電の部品メーカーであるスロベニアの“Kolektor”社が、BH北西部のプリエドルに、新たな工場を建設することを発表した。新規の雇用は50名から始まり、その後400名まで拡大する予定。

同社は、世界に4,500名の従業員を抱えるメーカーで、既にBHにもRSのラクタシとスルバツツに工場を持ち、480名を雇用している。

(了)